

山下ふ頭再開発

ハーバーリゾートの形成

～皆様のご意見をお寄せ下さい～



期間 平成 27 年 4 月 21 日 (火) ～5 月 21 日 (木)

山下ふ頭は、横浜ベイブリッジの内側、いわゆる内港地区に位置し、横浜中華街、山下公園などの横浜を代表する観光スポットである関内地区に隣接しています。

面積約 47ha という広大な開発空間や静穏な水域に囲まれた優れた立地特性を生かし、横浜の成長エンジンとなる都心臨海部における新たな賑わい拠点の形成に向けて再開発を推進していきます。

このため再開発計画の具体化に向けて、開発の方向性をはじめ、土地利用計画などを含む開発の基本計画を策定します。基本計画をより良い計画にするため、皆様のたくさんのご意見をお寄せ下さい。

再開発の概要（背景と関連計画）

【都心臨海部の現状・課題】

- 開港以来、横浜の中心地として発展。
- 社会経済状況の変化に対応した、横浜の持続的な成長発展を図るためには、都心臨海部の機能強化が不可欠である。

【横浜港の現状・課題】

- コンテナ化を背景に物流拠点は沖合に展開。
- コンテナの大型化や貨物量増加への対応が課題であり、先進的な施設整備などを進めている。

【山下ふ頭】

- 昭和38年に完成した面積約47haの一般貨物対応のふ頭で、港湾の物流拠点と都心臨海部が重なり合う場所に位置する。



【大さん橋に停泊する大型客船】



【新港地区の全景】



【本牧ふ頭の全景】



【コンテナターミナルの風景】

山下ふ頭の土地利用の見直し

- 新たな賑わい拠点の形成
- ミナトの質的転換

山下ふ頭の物流機能は、再開発を契機に、沖合に移転し、機能更新を図る。

■横浜港港湾計画（H26年12月改訂）

10年～15年程度の将来の横浜港の姿を定めたもの

「市民が憩い集う港」山下ふ頭の再開発

物流主体の土地利用を見直し、市街地との近接性など優れた立地特性を生かした新たな賑わい拠点形成に取り組みます。

■横浜市都心臨海部再生マスタープラン（H27年2月策定）

都心臨海部5地区を対象に、目標年次2050年（第一段階2025年）における目指すべき将来像を描いたもの

「みなと交流軸」の形成や「地区の結節点」における連携強化により、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりを推進する。

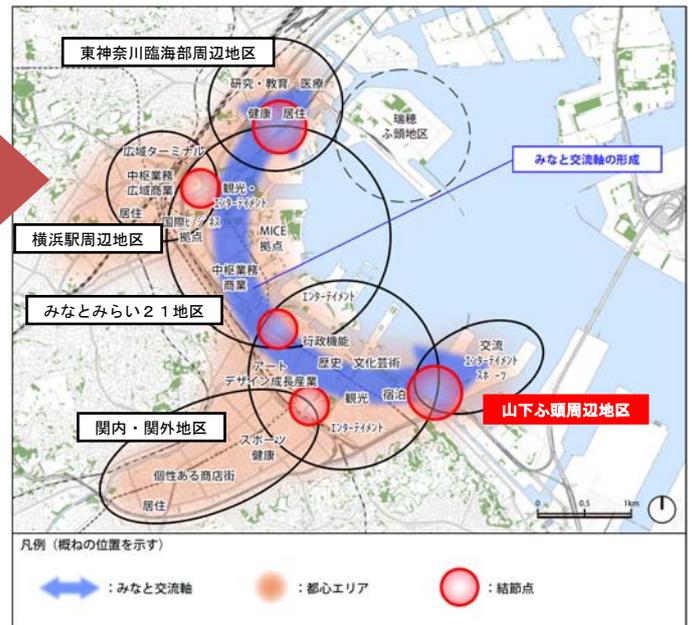
■横浜市中期4か年計画（2014～2017）

2025年を目標とする骨太なまちづくりの戦略と4か年の取組を示したもの

山下ふ頭の再開発の推進

山下ふ頭が持つ優れた立地特性をいかし、大規模で魅力的な集客施設の導入などを含め、都心臨海部における新たな賑わい拠点の形成に向けて再開発を推進します。

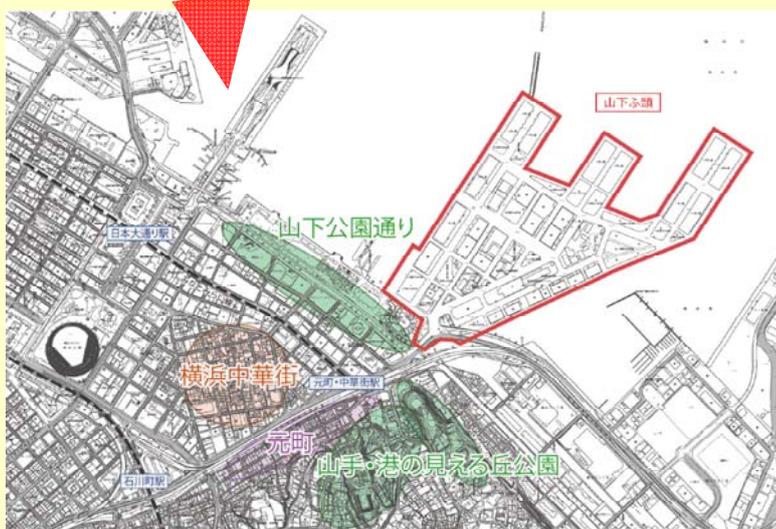
<都心臨海部の機能配置とみなと交流軸・結節点の配置イメージ>



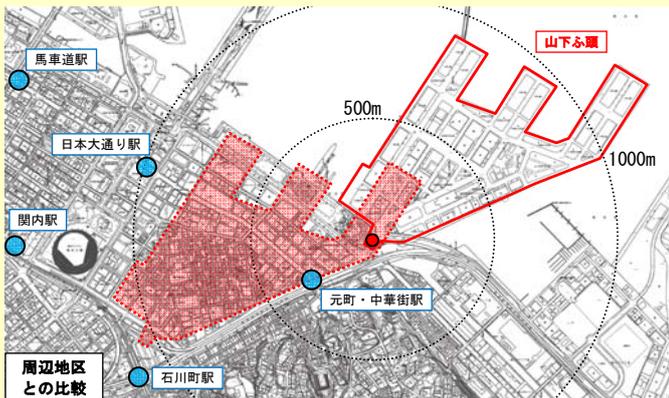
山下ふ頭の立地



【横浜港と富士山】

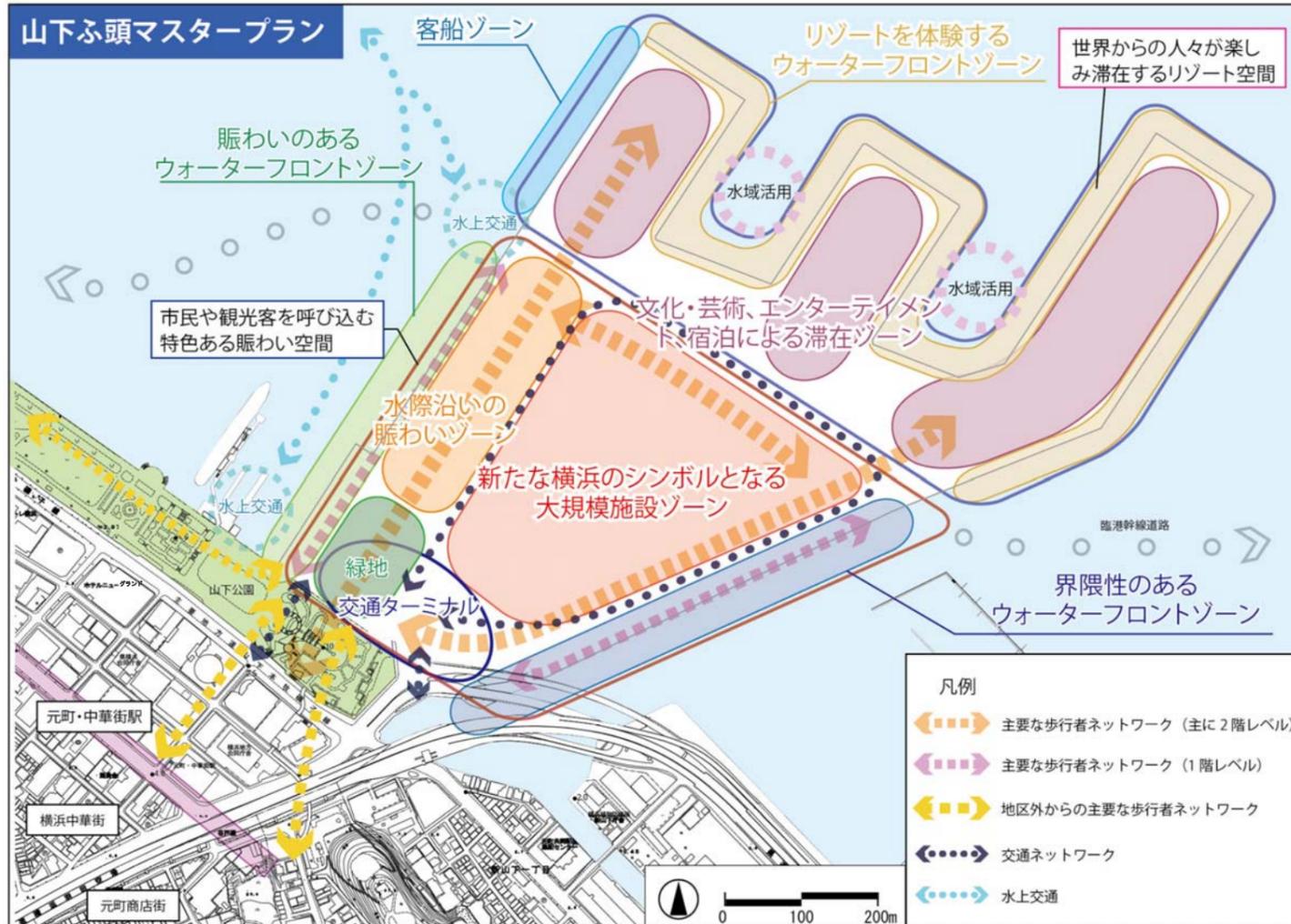


【参考】スケール比較



ハーバーリゾートの形成

～世界が注目し、横浜が目的となる都心臨海部にふさわしい新たな魅力創出～



※このマスタープランは、今後まちづくりを進めていくうえでの羅針盤となるものです。(掲載写真はイメージです。)

■ 親水性豊かなウォーターフロントの創出

- ④水と緑を身近に感じる空間づくり**
- 緑豊かなオープンスペースと水際プロムナード空間の形成
 - 水域活用イベント・取組の実施
 - 新たな水上アクセスルートの形成



※出典 7 ※出典 8

- ⑤港町の魅力を高める景観形成**
- 横浜港が持つ「みなとまち」の雰囲気を受け継ぎ、「ハーバーリゾート」として新たな景観の形成



※出典 9

■ 観光・MICEを中心とした魅力的な賑わいの創出

- ①国内外から多くの人を呼び込む賑わいの創出**
- 新たな横浜のシンボルとなる大規模集客施設
 - 文化・芸術、エンターテインメント、宿泊により、人々が楽しみ滞るリゾート空間



※出典 1 ※出典 2

- ②地区内外の移動を支える交通ネットワーク**
- 広域的な交通ネットワークと周辺地区との回遊性の向上
 - 観光拠点となる交通ターミナルの形成
 - 地区内の移動支援



※出典 4

- ③快適で、回遊性のある歩行者動線**
- 安全・快適な歩行者動線として地区内は歩車を立体で分離
 - 地区内の軸となる歩行者動線と歩行者ネットワーク



※出典 5 ※出典 6

■ 環境に配慮したスマートエリアの創出

- ⑥環境に配慮したまちづくり**
- 面的なエネルギーシステムの導入と建築設備における高効率化
 - 良好な屋外環境を取り入れた施設づくり
 - 新たな地区内交通システム



- ⑦高い防災・安全力をもつまちづくり**
- 災害時の来街者のための安全・安心の確保
 - 災害時の自立した都市機能の実現
 - 風水害対応として、歩行者空間の基本は2階レベルで形成

- ⑧わかりやすく利便性の高いまちづくり**
- まちの質を高めるエリアマネジメント
 - 多様な情報提供と積極的な情報発信
 - はじめてでもわかりやすいサイン計画を含めた動線計画



※出典 10

【出典】 ※1: Open Travel HP、※2: Flickr、※3: 公益社団法人 日本交通計画協会、※4: Letbaner.DK HP、※5: ウィキメディアコモンズ、※6: タイクーン HP、※7: アプタビ観光局 HP、※8: HELLO DAILY NEWS HP、※9: 横浜スパークリングトワイライト 2014 HP、※10: 株式会社カテナス HP
【図面】 横浜市建築局都市計画基本図データにより作成 【横浜市地形図複製承認番号 平 27 建都計第 9004 号】

再開発の実現に向けて

●事業手法

民間開発の実現できる範囲を見極めながら、公民連携の事業を基本として、関係計画※との整合を踏まえ、検討していきます。

※関係計画における記載

■横浜市中期4か年計画（2014-2017）

進化する国際的な観光・MICE都市として、統合型リゾート（IR）や官民パートナーシップの活用等を検討します。

■横浜市都心臨海部再生マスタープラン（H27.2）

新たな施設整備にあたっては、施設周辺のまちづくりとの連携や環境整備に取り組み、横浜でしか得られない感動体験を演出するとともに、官民パートナーシップの活用やIR（統合型リゾート）の導入などについて検討します。

●事業の進め方（段階開発）

山下公園前の水域を囲み、大さん橋～山下公園～山下ふ頭へとつながる新たな軸線を形成するため、山下公園と連続した約13haのエリアを整備し、まちづくりを進める大きなきっかけとなるオリンピック・パラリンピック東京大会開催の2020年（平成32年）に、一部供用することを旨として、事業を進めていきます。



★山下ふ頭の再開発を考える上で、重要だと思う視点を次から選んで下さい。（左側の□にチェック、複数選択可）

- ①国内外から多くの人を呼び込む賑わい創出
- ②地区内外の移動を支える交通ネットワーク
- ③快適で、回遊性のある歩行者動線
- ④水と緑を身近に感じる空間づくり
- ⑤港町の魅力を高める景観形成
- ⑥環境に配慮したまちづくり
- ⑦高い防災・安全力をもつまちづくり
- ⑧わかりやすく利便性の高いまちづくり
- ⑨その他（上記①～⑧以外）

★選択した視点について具体的なご意見があればご記入下さい。

●推進体制づくり

地区全体の一体的な空間づくりができるよう、早い段階から開発をコントロールしていく、横浜らしい取組体制をつくります。

【都心臨海部 5 地区】



●お問い合わせ●

〒231-0023 横浜市中区山下町2（産業貿易センタービル5階）
横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課

電話 045-671-7315 ファクシミリ 045-671-7158

電子メール kw-yamashitapier@city.yokohama.jp

ホームページ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/basicinfo/yamashita/>



平成 27 年 4 月発行